

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

六月のある朝、亜紀はマンションのベランダでツバメの巣を見つけた。

いつものように目ざまし時計のベルが、もつとねていたいというわたしの気持ち(1)をうちくたく。今日も暑くなりそうだと思いがら着替えをすませ、いつになくベランダに出てみた。いつの間(2)にできていたのか、のき下の一番高いところにツバメの巣らしきものを見つけた。親鳥の顔がちらつと見えた。そのいっしゆん、目があったような気がした。まるで「おじやまします。」「子育てが終わるまでの間、どうか静かに見守ってください。」と言っているような気がした。

学校に行っている間もツバメの巣の事が気になり、週に一度しかない図書委員会の仕事もうっかり忘れてしまうほどだった。

「どうしたの亜紀。」なんて美穂からも声をかけられる始末だった。「うん、なんでもない。」と答えたものの、ツバメの事は他の人(3)には言っちゃいけない気がしていた。いや、そうしなかった。ひみつにしておいたほうがわくわくするし、話しても美穂には興味なさそうな事だと思っただからだ。学校帰り、下校はんとバラバラになった後は早足で歩いた。「はやく家に帰って巣を確かめたい。」そんな気持ちで、エレベーターをおりてからドアまではわずかに十数メートルなのに走っていた。

かぎを開けて家に入ってみると、いつものようにまどのカーテンは開いていた。レスカーテンごしにちよつとどきどきしながら、(3) 巣を確かめた。だいたいようぶ、順調に子育てが続いている。なぜか大きなまどを開けてベランダに出ることはしな

第五学年

組

番

名前

かった。静かに見守ろう。おどろかしちゃいけないと思った。

(4) こんな日々がしばらく続いたかと思ったら、ある日ツバメの巣がからになっていくことに気付いた。「そうか、子育ては無事に終わったんだ。」亜紀はちよつときみしいと思いつつ、ツバメのヒナが元気に親と共に巣立っていったことに喜びをおぼえた。

それから数日たち、ツバメの事を忘れかけていた夜に夢を見た。あの時のツバメが静かに話しかけてくる。「今日一日だけ飛べるようにしてあげます。やさしく巣を見守ってくれたお礼です。」

確かにわたしの両手はつばさになっている。飛べるんだ、そう確信した私は、迷うことなく一階に降りて、自転車置き場から飛び立った。信じられない……。ちゆう車場には見なれたパバの車が止まっている。学校までの道のりをたどってみることにした。いつもの信号、歩道、そして家々。そうか、いつも見ていた小さな歯医者さんの後ろにはあんなに大きな池があったんだ。コンビニの後ろは畑になっていて、何かの野菜が育てられていた。自分が通っている小学校もおもしろかった。普段は下からしか見られない昇降口の光とりのための小さなドームがあった。

これでもしかしたら現実なのかも。そう思えるほど景色ははつきりとしていた。空からの景色なんて見たこともないはずなのに。

空からの景色にすつかり夢中になっていた亜紀に、ふと考えが(5) 浮かんた。そうだ、おばあちゃんの家に行ってみよう。亜紀のマンションからはかなりのきよりがあり、休みの日にパバの車でしか行ったことがなかった。でも、どう行けばよいか道順は自信があったし、何よりも大好きなおばあちゃんの姿を見たくなった。

1 気持ちをうちくたくとありますが、どんな願いを打ちくたくのですか。その願いを次のア、エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

- ア 学校に行きたくない。
- イ 朝ごはんを食べたくない。
- ウ もっとねていたい。
- エ 時計のベルを聞いていたい。

□

①

2 言ちやいけない気がしていたとありますが、その理由として考えられる二つのことを「くから」に続くように□の中に書きなさい。

| | |
|----|----|
| から | から |
|----|----|

②

3 □(3)にもっともあてはまる言葉を次のア、エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

- ア そつと
- イ すばやく
- ウ しつかりと
- エ 元気よく

□

③

4 □(4)に入る言葉として、もっともあてはまるものを次のア、エの中から一つ選び、その記号□の中に書きなさい。

- ア だから
- イ そして
- ウ もしも
- エ 次に

□

④

5 ふと考えがうかんだとありますが、どのような考えがうかんだのですか。その考えをあらわす一文をぬき出し、□の中に二十字で書きなさい。(「、」や「。」も一字分とします。)

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

⑤

6 コンビニの後ろは何になっていましたか。次の□の中に書きなさい。

□

⑥

第五学年

組

番

名前

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) (10)は段落の番号です。

1 ラッコの子の成長が、とてもはやいのは、おどろきます。

2 生まれて二、三日もすると、浮かされてもじっとしていません。

3 自然に泳ぎはじめてしまった、といった感じですが。水面で、ねがえりをうつことも、うまくできるようになります。

4 母ラッコが人になれているばあいは、生まれてまもない子（新生児）が、少しぐらい人に近寄っていても、平気です。

5 そばにきたラッコの子の、指のつめをよく見ると、先が、かぎのように曲がっています。母親の体にすがりつくとき、しっかりとだきつけるようになっていられるでしょう。ラッコの子に、指ををふれると、小さな歯でかんだりします。そつと歯があたる感じですが。でも二日ほどしてから、またかませたら、とても

6 いたいので、びっくりしたことがあります。ちよつとの間に、おどろくほど、かむ力が強くなっていたのです。

7 一か月もすると、かなり泳ぎ、水中へもぐるうとします。でも、もぐりたくても、体に浮力があるので、おしりがポコッ、ポコッと浮いてしまい、なかなか体が水中へ入っていきません。

8 それでもラッコの子は、さかさになって一所けんめいに手足をバタつかせ、少しもぐっては、スーッと水面に浮いてきます。

9 (2)、ひと息ついては、またバタバタ、スーッとをくりかえします。

10 そのようすは、じっと見ていると、おかしくなって、思わず笑ってしまいます。でも、心の中では、がんばれ、がんばれ、と応援したくなるのです。

7 しかし、一度もぐれるようになると、一日といわず、あつという間にもぐる深さが一メートルから二メートル、といったぐあい

8 このころになると、えさにも興味をもつようになり、えさを食べている母ラッコにからみついて、ねだります。気がついた母ラッコが、えさの小さな切れはしを、両手の先にはさんでさしだと、それをとって、口にはこび、しゃぶったり、かんだり

9 気のはやい母ラッコは、生まれてまだ二、三日しかたっていない子に、もう、えさをわたそうとします。母親がはやめに教

10 子は、何日か、えさをかんでいるうちに、こくつとのみこみ

えさを食べるようになれば、もう安心です。

(中島将行「生き生き動物の国ラッコ」誠文堂新光社

《H22茨城県学力診断のためのテスト》による。

※1 浮力Ⅱ水や空気などの中にある物に対してはたらく、その物を上におし上げようとする力。

※2 一所けんめいⅡありつたけの力を出してがんばる様子。

※3 乳離れⅡ子が成長して乳を飲む必要がなくなること。

※4 本能Ⅱ動物が生まれつき持っている性質や心のはたらき。

1 (1) そつと歯があたる感じですが。でも、二日ほどしてから、またかませたら、とてもいたいで、びっくりしたことがあります。とありますが、この二つの文を一文にして次のように書き直したいと思えます。次の にあてはまる言葉を書きなさい。

そつと歯があたる感じ

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

、二日ほど

してから、またかませたら、とてもいたいで、びっくりしたことがあります。

⑦

2 (2) にはどんな言葉が入りますか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きなさい。

- ア つまり
- イ たとえば
- ウ そして
- エ しかし

⑧

3 (3) には文章中の言葉が入ります。あてはまる言葉を文中から二字でぬき出して、次の の中に書きなさい。

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

⑨

4 次の の中の文は、文章中のどの段落の後に続きますか。その段落の番号を の中に書きなさい。

ラッコの子は、泳いだり、もぐったりする素質があるうえに、とてもがんばり屋なのです。

の段落

⑩

5 この文章に書かれていることに、あてはまらないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きなさい。

- ア ラッコの子は、生まれてちよつとの間にかむ力が強くなっている。
- イ ラッコの子は、一か月もすると、かなり泳ぎ、水中へもぐろうとする。
- ウ ラッコの子は、えさを食べている母ラッコにからみついて、えさをねだる。
- エ ラッコの子は、生まれて二、三日すると、えさをとるようになる。

⑪